

コテングコウモリ *Murina ussuriensis* Ognev

【選定理由】

本種はアジア東部に生息するコウモリで、国内での分布は比較的広いが、愛知県では設楽町と豊根村における3地点での4個体が確実な生息記録である。森林性コウモリで、木の茂みで休息しているのが観察されている。県内では生物多様性の高い森林が局地的にしか存在していないので、本種の生息を保証する良好な環境の不足が本種の個体群に絶滅の危機をもたらしていると考えられる。

【形態】

体重 3.5~6.5g、頭胴長 38~54mm、前腕長 28.4~33.0mm、尾長 26~33mm、脛骨長 12~16mm、後足長(爪を含む) 7.0~10.5mm、耳介長 12~17mm、耳珠長 7.2~9.0mm、頭骨最大長 14.6~16.0mm。小型で、背面の毛色は黄土色から淡赤褐色。耳介は卵形で耳珠は細長い。腿間膜は上面の全面が毛で被われ(前田, 1994)、尾端が1mmほど腿間膜の外に突出する。歯式は I2/3, C1/1, P2/2, M3/3=34 (子安・織田, 2009 など)。脊柱式は調べられていない。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽町(原田, 1998)と豊根村(橋本 肇氏)から知られていた(子安・織田, 2009)。その後、瀬戸市、豊田市、岡崎市、東栄町でも確認された(寺西, 2016 ; 子安, 2018)。

【国内の分布】

国後島(Tiunov, 1997)、北海道、本州、四国、九州、奄岐、対馬、屋久島で記録されている(Kawai, 2015)。

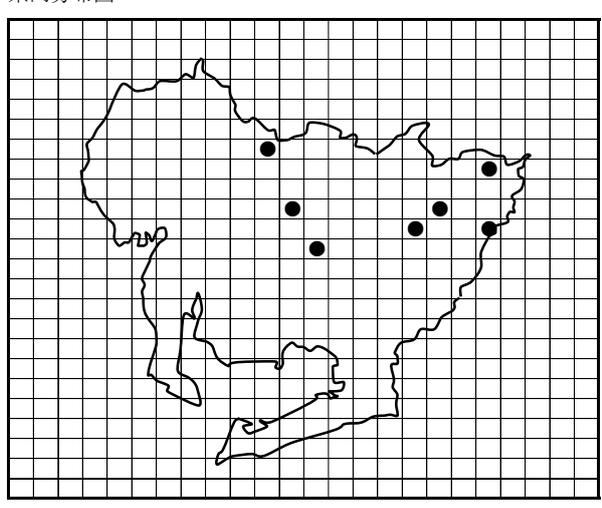
【世界の分布】

日本、サハリン、シベリア沿海地方、朝鮮半島に分布する(Kawai, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

昼間は木の茂みの間や樹洞の中で休息しているが、たいていは単独で見つかっている。日没後ねぐらから出て採餌し、夜明け前に戻る。夜間に飛翔性昆虫を捕食するが、葉上に静止している昆虫も食べているらしい(前田, 1994)。初夏に1~2頭の仔を出産するという。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

県内には生物多様性の高い森林が限局的にしか存在せず、森林性コウモリがねぐらとして利用できる樹洞のある巨木も少ない。森林の伐採や単一樹種の植林が本種の採餌場所の環境悪化をもたらし、個体群の維持を困難にさせている。

【保全上の留意点】

生物多様性の高い森林の保全に努めるとともに、生物多様性を高めるような植林やバットハウス(コウモリ用巣箱)・人工樹洞の設置などを推進する必要がある。また、生物相調査の際には森林性コウモリの生息可能性を常に考慮し、コウモリ類の生息状況を正確に把握するようにつとめなければならない。本種は人工建造物に住みつくことがあるので、より有効なコウモリ用巣箱を取り付けるなど保護施設の開発を進めることによって保護の成果が期待できるとされている(向山, 2000)。

【特記事項】

Yoshiyukiは1983年に日本産のコテングコウモリが固有種であると考えて *Murina silvatica* という学名を与え、和名をニホンコテングコウモリとしている(Yoshiyuki, 1989)。*Murina silvatica* は IUCN2003 のレッドリストでは LR/nt (準絶滅危惧) のランクが与えられている。日本哺乳類学会では希少種とされている(前田・松村, 1997)。

【引用文献】

- 原田猪津男, 1998. ほ乳類. 新編豊川市史第十巻『自然』-資料-, pp.186-190. 豊川市, 愛知県豊川市.
Kawai, K. 2015. *Murina ussuriensis* Ognev, 1913. The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.123-125. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
子安和弘, 2018. 人家から奥山まで生息する哺乳類. 新修豊田市史 別編 自然, pp.586-603. 愛知県豊田市, 豊田.
子安和弘・織田銃一, 2009. コテングコウモリ. レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.71. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
前田喜四雄, 1994. コウモリ目(翼手類). 日本の哺乳類, pp.37-70. 東海大学出版会, 東京.
前田喜四雄・松村澄子, 1997. 翼手目 CHIROPTERA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.31-55. 文一総合出版, 東京.
向山 満, 2000. ニホンコテングコウモリ. 青森県の希少な野生生物, p.111. 青森県環境生活部自然保護課, 青森.
寺西敏夫, 2016. 愛知県におけるコウモリ相と生息実態. NPO 法人東洋蝙蝠研究所 2016 年度研究会抄録 (自刊).
Tiunov, M.P., 1997. [Chiroptera of the Far East], 134pp. Dalbnauka, Vladivostok.
Yoshiyuki, M., 1989. A systematic Study of the Japanese Chiroptera, 242pp. National Science Museum, Tokyo.
(子安和弘・織田銃一)